

No.731 October 2017

ASAHIMACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

秋
深し、
色付く山々

2017
10

No. 731



町民の足として使いやすく、運賃負担も一部軽減

町デマンドタクシー「あいのり号」の利用者数が、このたび10万人を突破しました。

交通空白地域の解消や、特に高齢の方が通院や買物に出掛ける際の足を確保するため、平成22年4月より運行を開始した「あいのり号」。利用者登録制の町営デマンド（乗り合い）タクシーとして、現在平日10便（各地区より宮宿方面へ上り5便・下り5便）を運行しています。

この度10万人目の利用者となったのは、9月28日の2番便に乗り合わせた22人の皆さん。同日「町立病院前」の停留所で記念式典が行われ、全員に記念品が贈られました。

式典では鈴木浩幸町長が「約7年半の期間で10万人もの多くの方にご利用いただき、『あいのり号』が町民の足として愛され、親しまれていることを嬉しく思います」とあいさつ。

10万人目の利用者で、月に2回ほど乗車しているという長岡キミ子さん（太郎）は「運転手さんが親切で、乗り心地も良い。乗り合いなので待つ間のおしゃべりも楽しみのひとつ

◆デマンドタクシー時刻表（目安／予約状況により変動します）

上り (各地区→宮宿)	便番号	下り (宮宿→各地区)
8:00	1番便	8:45
9:30	2番便	11:00
12:00	3番便	12:45
13:30	4番便	14:30
16:45	5番便	16:10

利用料	75歳以上	高校生以上	小・中学生	小学生未満
(乗車1回あたり)	200円	400円	200円	無料

です」と笑顔で語っていました。

デマンドタクシー「あいのり号」は、今年度より75歳以上の方の利用費負担を軽減（利用者登録時に年齢確認のうえ半額）、北部地区発の上り2番便を増便するなど、さらに利用しやすくなりました。予約（乗車30分前まで連絡）制ですが、どなたでも利用できますので、ぜひご利用ください。

デマンドタクシー「あいのり号」利用者10万人を達成

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
デマンドタクシー「あいのり号」利用者10万人を達成
- P4 特集
鳥獣被害を減らすために
- P10 町政スポット
・あさひまち健康まつり
・朝日町総合防災訓練および西村山広域応援訓練
・地域づくり振興計画策定のためのワークショップを開催 ほか
- P12 まちレポ
・第38回ワインまつり
・古民家で楽しむハープコンサート
・第70回 かぼちゃ大運動会
・「町特産あけび」のふるさと給食 ほか
- P14 6総策定町民ワークショップふりかえり新聞
- P20 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー道の駅あさひまち2周年、和合荘に阿弥陀三尊像の絵画が寄贈、各種大会の成績
- P22 戸籍のまど、となりのリンゴさん、町の主な行事・イベント
- P23 あさひまちアップルミートマラソン&ウォーキング
- P24

表紙の写真



9月30日、朝日町民登山に同行させていただきました。午前6時過ぎに古寺鉱泉より出発し、小朝日岳山頂に到着したのが10時頃。皆さんご健脚で、なんと予定より約1時間早い登頂でした。その喜びとともに、目の前に雄大にそびえる大朝日岳を撮影した1枚です。広報担当は日頃の運動不足がたたって満身創痍、こんなにカメラが重いと思ったのは初めてでした…。

町長歳時記 (135)

これが本当の「おもてなしのころ」 ～相手を思い、一生懸命 できることの最善を尽くすこと～

9月23日、早朝6時過ぎに総合産業課長から、急遽ワインまつりの実行委員会を開催したい旨、電話がありました。

夜半から降り出した雨は時折激しく、そして思いのほか長時間に渡り、降り続けていました。ワインまつりの会場となる創遊館芝生広場は多量の雨水を吸い込み、ぬかるんだ芝生が重く私たちの心をふさいでいきました。

早出して来ていた担当スタッフたちは、広場のあちらこちらにスコップで穴を開け、そこに雨水を溜め込み、何とか芝生の整地をしようと呼びかけていました。100%ではありませんでしたが、昼にかけ雨の上がる確率が高いという予報を確認しながら話し合っていると、また時折小雨が降り返し、なかなか結論も出せず、時間だけが刻々と過ぎていきました。

「家にあるハウスのビニール全部持ってくるから、その上さブルーシート敷くと、何とかなるべ」と言ってくれた観光協会会長や、「使用済みだけど家のビニールも持ってきます」と言ってくれたスタッフの方々。貴重なチケットを購入していただいたお客様のためにも「何とかやりたい」という、実行委員の皆さんの熱い思いの中開催を決定し、午前7時半、曇天の空へ開催を知らせる花火が打ち上げられました。

来場された多くのお客様から、「よかった」「最高だった」「来年もまた絶対来ますよ」というお言葉をいただき、また、ぬかるんだ会場にもかかわらず、「こんなに丁寧に対応していただいてありがとうございます」と感謝の言葉までいただき、「ああ、これが本当のおもてなしの心なんだなあ」と、改めて気づかされたところでありました。

朝日町長 鈴木浩幸



1.園地周辺で侵入経路を発見 2.3.クマによって傷付けられたりんごの樹。爪あとが残り、折れた枝は枯れている 4.現場周辺の見回りについて打合せ 5.箱ワナ撤去の様子。大変重いため、数人で協力しながら行う

実りの秋。特産のりんごの収穫も始まり、町が一番活気づく季節です。それと同時に、「有害鳥獣」による被害や目撃も多い季節。農作物などへの被害はもちろん、生活圏内にまで入り込んできた鳥獣は、暮らしの安全までも脅かす存在となります。鳥獣被害を減らすために、私たちが取り組めることは何でしょうか。

絶えない目撃・被害報告

「ほれ、見てみる。こっから登ったんだ。枝が折れたっべ」「園地周辺の草もあちこち倒れたっな。こりゃ全部通り道だ」

9月1日、町の「鳥獣被害対策実施隊」が大沼地内のりんご園地に出動していました。同隊は園地所有者からクマによる作物被害の通報を受け、箱ワナを設置。定期的に見回りに訪れ、現場の確認を行っています。隊員が示すように、被害に遭った樹は枝が折れて一部が茶色く枯れており、幹には鋭い爪で引つかかれた跡がはつきりと残っていました（上写真参照）。

深刻化する果樹農業への打撃

町での被害・目撃通報が最も多い有害鳥獣は「クマ（ツキノワグマ）」で、昨年だけで72件の通報がありました。続いて「イノシシ」が2件

「カラス」「タヌキ」「ウサギ」による通報もあります。被害総額は1年間で約53万円。被害総量は約1.63トンにもなり、特にりんご等の果樹類への損害が大きくなっています（下表参照）。

こうした被害に対して、平成27年4月に結成されたのが「朝日町鳥獣被害対策実施隊」。県猟友会西村山支部朝日分会の会員等で結成された同隊は、町の非常勤特別職として委嘱され、現場対応を行っています。

減少する猟友会員と増える鳥獣被害

20年ほど前には約60人いた町の猟友会員も現在は16人。普段はそれぞれの仕事がある中、70件を超える出動要請に対応するのは大変なことです。メンバーの高齢化も進んでおり、このままでは被害が出ても対応しきれないという事態になりかねません。

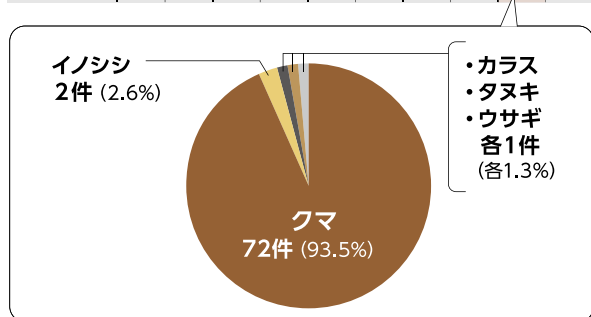
しかしながら、ベテラン会員の知識と経験を引き継ぐ後継者の育成には時間がかかります。これからは、私たち1人ひとりが危機意識を持って「学習」「情報提供」「未然防止」に努め、「鳥獣被害自体を減らす」取り組みをしていくことが何より大切です。

◆平成 28 年度 鳥獣による農作物被害量（推計）

品 目	被害面積	被害量	概算被害金額
りんご	84.5 a	1,385 kg	346,350円
さくらんぼ	9.5 a	60 kg	150,000円
スモモ	1.5 a	50 kg	12,500円
西洋なし	2 a	40 kg	10,000円
桃	0.5 a	20 kg	5,000円
とうもろこし	1 a	30 kg	4,000円
かぼちゃ	6 a	15 kg	3,900円
栗	1.5 a	30 kg	1,500円
合 計	106.5 a	1,630 kg	533,250円

◆年度別有害鳥獣捕獲数の推移

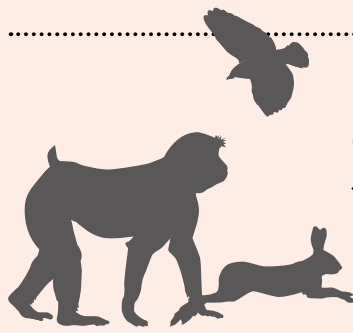
	H24		H25		H26		H27		H28	
	報告数	捕獲数	報告数	捕獲数	報告数	捕獲数	報告数	捕獲数	報告数	捕獲数
クマ	49	33	9	1	29	19	15	4	72	30
イノシシ	0	0	0	0	2	0	7	0	2	0
カラス	0	0	1	0	1	0	2	23	1	0
タヌキ	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
ウサギ	1	4	0	0	2	0	1	6	1	0



特集 鳥獣被害を減らすために

「有害鳥獣」とは？

「生活環境」「農林水産業」「生態系」に関わる被害を及ぼす、またはその可能性が高い鳥獣のこと。各種防除対策によっても被害が防止できないと認められる場合、捕獲が行われる。町では、以下の鳥獣を「捕獲対象」として定めて（※）いる。（※）朝日町鳥獣被害防止計画より



◆町で捕獲対象としている鳥獣（～平成 29 年度）
（獣類）ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザル、ハクビシン、タヌキ、ノウサギ（鳥類）サギ類、ウソ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス



有害鳥獣への対策

町では、県猟友会西村山支部朝日分会（小松正明代表 から16人を「鳥獣被害対策実施隊」として委嘱しています。同会員は鳥獣の生態や活動範囲などについて豊富な知識や狩猟の経験を持ち、迅速で的確な現場対応を行っています。同会および同隊で事務局を担当する齋藤義幸さん（杉山）に、今年の出動状況と隊員活動、今後の課題についてうかがいました。

日々の情報収集が大切

「今年も春からすでに30件ほど出動してるよ。クマは相変わらず多いし、あとは去年よりイノシシ被害が増えているみたいだ」

10月1日、杉山地区。実際に被害のあった農地を齋藤さんが案内してくれました。稲刈りシーズンを迎え、黄金色に輝く棚田。中でも高い位置にある田のいくつかが、無残にもイノシシに踏み荒らされていました。

「これじゃ（被害が大きくて）稲刈りしなくてもいいみだいな」。田の持ち主の1人である安藤正義さんはため息をつきます。「他に被害はないか」と声をかける齋藤さん。ワナをかけても、なかなか捕まらないイノシシ。被害を拡大させないためにも、情報収集は欠かせません。

今年も木の美不足、クマに警戒

「イノシシに加え、今年もブナの実が不作。冬に備えて、クマの被害が増えるのはこれから」と語る齋藤さん。続けて「猟友会のほとんどは農家だから、農繁期と重なるこの時期は大忙しで、調整が大変なんだ」と顔を曇らせます。「一番若い会員も40代半ばで、ベテランは80代が2人。10年、20年後にはもっと人手が減るだろうと思うと、鳥獣被害対策実施隊の活動も心配だよ」

特にクマは農作物のみならず、人にも被害が及ぶ危険性があります。出没が目立つのは、やはり里山付近の農地。逆に言えばここで食い止めなければ、被害が里に下りてしまいます。

目撃したらすぐに連絡を

「対応人員は多い方が良から猟友会でも新規会員は大歓迎だし、全面的にバックアップする。まずは現場を見てもらうだけでも経験になるから、若い人にも関心を持ってもらえばいいね」と齋藤さん。合わせて「有害鳥獣の目撃や作物被害があった場合には必ず通報を」と念押しします。「役場または近隣の猟友会に連絡して貰えば、実施隊員が現場確認に向かいますので協力をお願いします」



1. 鳥獣被害について情報収集をする齋藤さん 2. イノシシが倒していった稲 3. 田に残るイノシシの足あと 4. 倒された稲は泥にまみれて刈り取れず、無残に残る 5. 愛犬と齋藤さん

免許の種類	猟 具
網 猟	むそう網、はり網、つき網、なげ網
わな猟	くくりわな、箱わな、箱おとし、囲いわな
第1種銃猟	装薬銃（ライフル銃、散弾銃） 空気銃（圧縮ガス銃を含む）
第2種銃猟	空気銃（圧縮ガス銃を含む）

◆狩猟免許取得（新規）に係る費用

		わな猟 網猟	第1種 銃猟	第2種 銃猟
免許 試験	講習テキスト代	5,000 円（半額助成あり）		
	狩猟免許試験料	5,200 円（半額助成あり）		
狩猟者 登録	狩猟登録手数料	1,800 円		
	狩猟税	8,200 円	16,500 円	5,500 円

※免許試験の際に、別途「医師診断書」費用（3,000 円）がかかります。
※猟友会に入会の際は、別途「会費」と「ハンター保険料」がかかります。

◆狩猟（捕獲）を行うには…

鳥獣保護法によって、狩猟には「狩猟免許」の取得が義務づけられています。狩猟免許には「網猟」「わな猟」「第1種銃猟」「第2種銃猟」の4種があり（上表参照）、試験は県が実施します。

試験で取得した免許は3年間有効で、都度更新が必要です。また、実際に狩猟を行う際には、県に「狩猟者

登録」を行う必要があり、登録と同時に「狩猟税」が発生します。県および町では、これら免許の試験料や、新たに銃等を購入する際の費用に助成しています。

また、「鳥獣被害対策実施隊」の委嘱を受けると（※）、次年度より「狩猟税」の免除を行うなどの補助事業を実施しています。（※）同隊員になるには猟友会への入会と推薦が必要です。



今年9月に「わな猟免許」を取得
清野 直己 さん（23 歳／平）

家族でりんご生産を主に農業をしています。今回「わな猟免許」を取得したきっかけは、うちの園地にもイノシシ被害があったこと。自分で対策できればと考えたのと、以前から狩猟に興味もあったので、挑戦してみようと思いました。

試験や必要経費などの情報は、町の農林担当職員の方が教えてくれました。試験は筆記と、身体的な適性検査、実技で「わな架設」がありましたが、それほど難しくなく取得できたと思います。試験に係る費用に助成もあり、その点は助かりました。

「協力したいという気持ちも、危機感もある。でも、周囲の協力や理解が得られなければ難しい」

今後は「銃猟免許」の取得を視野に入れ、知識や経験を積むために、猟友会にも入会したいと思っています。近年の鳥獣被害は農家として危機感を感じるし、自分も協力したいという気持ちがありますから。

ただ、それには家族の理解や周囲の協力が必要です。有害鳥獣といえど生き物の殺生に関わることだし、特に銃は保管や維持にも気を使います。また、家族で農業をしているので、狩猟に出る際の抜けた穴は、そのまま家族にかかってくるかもしれません。それを理由に「免許は持っていても狩猟していない」という先輩の話も聞いたことがあります。

今後は金銭的な助成はもちろんですが、こうした農家の「補助労働力」へサポートがあれば、「やりたい」「協力したい」という人も増えるのではないのでしょうか。

対策② 情報提供をする

有害鳥獣を「目撃した」「被害に遭った」ら、以下の手順で通報をお願いします。



【番外編】こんな時はどうすればいいの？「Q&A」

- Q. 道路で動物が死んでいます。どこに連絡すればいいですか？
A. 税務町民課 環境・固定資産税係で承ります。 ☎67-2107

※農地内で鳥獣が死亡していて処理に困る場合には、手を触れずに農林振興課 事業係 (☎67-2114) までご連絡ください。

ご協力をお願いします！

対策③ 未然防止に努める

有害鳥獣を引き寄せないために、町民1人ひとりが防除意識を持ちましょう。

◆エサ場を作らない！

農地周辺や人家には、野生動物のエサがたくさん！
食物を放置せず、エサ場と思わせないようにしましょう。

- ★収穫しない野菜や果樹、間引いた株を農地に残さない
取れないようにネットで囲んだり、埋設処理をする
- ★すでに被害を受けた農作物もエサになるので放置しない
- ★家庭から出た生ごみ、クズ野菜などを、堆肥代わりに農地や庭先に放置しない
- ★果物、菓子などのお墓のお供え物は、お参り後に持ち帰る
- ★軒下の干し柿・凍み大根などは、動物の手が届かないように管理する(ネットに入れて干すなど)
- ★野菜や果物などの無人直売所でも、簡単に取られないような工夫をする

◆農地を適切に管理する！

収穫しない果樹や農地の下草も野生動物のエサになります。適切な管理を心がけましょう！

- ★稲刈り後の秋耕起で、虫や雑草の発生を抑える
- ★果樹園の下草もシカなどのエサになるので、特に春先などはきちんと除草する
- ★所有者が不明、または誰も収穫せず放置された柿、栗、クワなどの果樹は、地域の合意の上でできるだけ伐採する
- ★農道や林道、畔やのり面のような共有地に生える雑草も、できるだけ除草する
- ★イノシシの隠れ場所となりやすい林縁部の草地は、定期的に草刈りをする



対策① 有害鳥獣について学ぶ

町で特に多い有害鳥獣(クマ、イノシシ)の生態を紹介します。

◆クマ (ツキノワグマ)



○特徴

- ・体長 100 ～ 150cm 程度
- ・雑食(主に木の实から動物の肉まで)
- ・黒毛で胸に月型の模様がある
- ・聴覚と嗅覚に優れる(視覚は良くない)
- ・木登りや泳ぎが得意
- ・夜行性(昼間活動することもある)
- ・時速約 40km で走ることができる

○足あと (状況により多少形状が異なります)



▲前足(左)・後足(右)

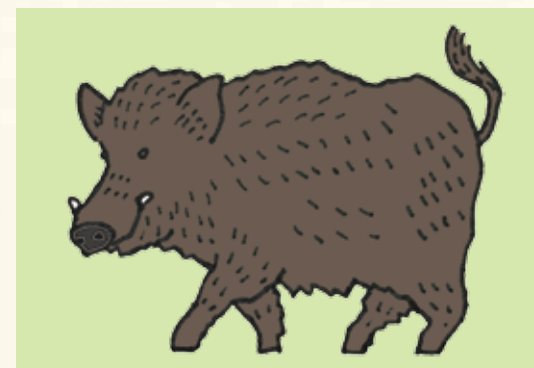
鋭いかぎ爪と肉球が特徴。前足と後足で形状が異なり、後足の方が細く大きな跡が残る。

○糞 (状況により多少形状が異なります)



人と同様かやや大きい。粒子が荒く、食べたものが判別できる。時間が経つと黒変する。あまり臭わない。

◆イノシシ



○特徴

- ・体長 100 ～ 160cm 程度(雄成体/個体差あり)
- ・雑食(イモ、稲、草木、昆虫の幼虫など)
- ・体毛は茶色く、太くて剛毛
- ・昼夜を問わず活動、範囲は2～3kmに及ぶ
- ・成獣は1m以上の跳躍力を持ち、泳ぎもできる
- ・鼻は犬並みの嗅覚をもつ
- ・50 ～ 60kgの重さなら持ち上げ、動かせる

○足あと (状況により多少形状が異なります)



前に大きな蹄と、後ろの副蹄が特徴。後ろ2本は地面が柔らかいと残るが、目立たないか残らない場合も多い。

○糞 (状況により多少形状が異なります)



ため糞しない。棒状の糞だが、時間が経つと白く乾燥して、バラバラに崩れる場合がある。

被害を抑えるために

鳥獣被害を少しでも減らすために、私たちができる取り組みとして、
① 有害鳥獣について学ぶ ② 情報提供をする ③ 未然防止に努める
の3点を柱に、具体的な行動をおさらいしていきます。

地域づくり振興計画策定のためのワークショップを開催

■政策推進課 地域振興係 ☎67-2112



真剣に意見を交わす下芦沢区住民の皆さん（9月25日）

後数回のワークショップを経て、来年1月末には計画を完成させる予定です。

同ワークショップについて、今年度は下芦沢区のほか、真中、立木、長沼区などで実施。来年度以降も同様の取り組みを町全体に広げていくことで、多くの区が希望を持って活動できるまちづくりを進めていきます。

今住んでいる地域で将来もずっと幸せに暮らしていくための「地域づくり振興計画」策定を目的に、町では今年度、地区住民によるワークショップを開催しています。

町内には全55区の集落があり、規模や年齢・職業構成はもちろん、特色や抱える課題もそれぞれ違います。住民だからこそわかる集落の魅力や自慢、これから生じてくる問題などについて話し合い、10年20年先もこの場所できいきと暮らすため

の計画を、住民自らの手でつくろうという取り組みです。

開催地区の一つである下芦沢区では7月から既に3回の会合を行っており、意見交換と課題の洗い出し、区を歩いての現状把握から計画の素案づくりを進めています。ワークショップには今年4月に着任した「集落づくり協力隊」と同区の「地域派遣職員」も参加。進捗や取りまとめを担当し、計画策定後の活動についても共に進められるようにと考えられています。同区は今

あさひまち健康まつり

■健康福祉課 健康推進係 ☎67-2116



- ▲親子で楽しい軽スポーツ体験
- ▲食事の重要性について語る堤氏
- ▼むし歯ゼロ表彰式の様子



健康づくりについて多方面から学ぶ「あさひまち健康まつり」が10月7日、創造館を主会場に開催され、約200人が参加しました。

イベントでは、3歳児健診でむし歯が1本もなかった幼児（今年度は28人）を称える「むし歯ゼロ表彰式」や、アスリートであり野菜ソムリエの資格を持つ堤佳子氏による「カラダが喜ぶ食事の秘密教えます」と題した講演、町食生活改善推進協議会の皆さんが作った寒天を使ったヘルシーメ

ニューの試食会などが行われました。

また、町では生涯現役でいきいきと活動できるまちづくりを推進するため、昨年3月よりまちづくり事業で大手スポーツメーカーのミズノ株式会社と提携を結んでいます。当イベントでも同社の協力を得て、各種体験ブースのほか、親子スポーツ教室を実施。親子でコミュニケーションを取りながら一緒に軽スポーツを行い、体を動かす楽しさを体験しました。

シナノスイート安全・安心現地交流会

■農林振興課 農政係 ☎67-2114



安全でおいしい町のりんごを手に笑顔の園児たち

収穫期を迎えたりんご中生種の主力「シナノスイート」の安全を確認する交流会が農業団地センターで行われました。

会には、消費者代表としてあさひ保育園の園児42人のほか、各関係者が参加。園児代表の高山律くん（高田）と阿部ゆめのさん（四ノ沢）が、残留農薬検査用のサンプルりんごを「A全農山形の担当者に手渡ししました。今年の生育状況は「開花期間中好天に恵まれ、良好な生育」と生産者の志藤清市郎さん（前田沢）。最後に「秋陽」の試食が行われ、園児らは「おいしい」と笑顔でりんごを頬張っていました。

固定資産評価審査委員会委員に志藤彰氏

■総務課 庶務係 ☎67-2111



町議会9月定例会の同意を得て、朝日町固定資産評価審査委員会委員に、9月22日付で、志藤彰氏（大谷三ノ68歳）が選任されました。

固定資産評価審査委員会は、市町村に置かれる行政

委員会です。固定資産台帳に登録された固定資産の価格に対し、住民から不服申し立てがあった場合、公平かつ中立的な立場で内容を審査する機関です。

町の条例で委員の定数は3人以上とされており、9月22日現在では、志藤委員のほか、若月秀一委員（西船渡）、柴田徹委員（大町）の3人が選任されています。委員の任期は、それぞれ3年間で、それぞれ3

朝日町総合防災訓練および西村山広域応援訓練

■総務課 防災係 ☎67-2111



▲配布された防災マップ

今年度の町総合防災訓練が10月1日、西部公民館周辺で実施され、常盤地区住民や消防団員など約200人が参加しました。

今回は西村山広域応援訓練も兼ねており、1市4町（寒河江、河北、西川、大江、朝日）の消防団員が集合。地域住民の避難から訓練を開始し、土のう積みや初期消火、心肺蘇生法の訓練のほか、ロープ結索訓練、災害伝言ダイヤルの体験会などが実施され、最後に1市4町の消防団員による火災

防ぎよ訓練が行われました。忘れた頃に発生するのが災害の恐ろしさ。有事の際に命を守るカギとなるのは、訓練経験の有無です。自主防災組織等で訓練が行われる場合にはぜひ積極的に参加し、緊急時の協力体制を確認し、地域みんなで防災意識を高めましょう。

また、10月1日の文書配布日に「防災マップ」が全戸配布されています。しっかりと目を通し、いざという時の避難経路や行動を復習しましょう。



9/19 地元の食材を子どもたちへ
「町特産あけび」のふるさと給食

町が有数の名産地であり、今が旬の「あけび」を取り入れた給食が9月19日、町内3小学校で提供されました。

地元食材・郷土料理のPRと、地産地消推進のため、毎月19日の「食育の日」にちなんで実施されている「ふるさと給食」の一環。あけびは、町産のなすや玉ねぎなどの野菜と一緒に味噌炒めで提供されました。大谷小学校の志藤翼くんは「家でも肉味噌づめなどで食べたことがある。少し苦いけどおいしい」と完食していました。



▲ 52 打の好記録で見事総合優勝を決めた長岡清敏さん

9/24 過去最高の 92 人が参加
第 50 回 町民グラウンドゴルフ大会

9月24日、50回目を数える町民グラウンドゴルフ大会（秋の陣）が西部公民館見晴らしの丘で行われ、参加者は秋晴れの下さわやかな汗を流し、交流を深めました。過去最高となる92人のエントリーの中で、見事総合優勝に輝いたのは長岡清敏さん（太郎一）。また、今回はダイヤモンド賞（8ホール内でホールインワン3回）を堀良一さん（舟渡）と阿部トシ子さん（松程）の2人が受賞という好記録も飛び出し、記念大会を彩りました。



10/5 結婚 50 年の節目を夫婦で祝う
金婚祝賀会

10月5日、結婚50年の節目を迎えた夫婦を対象とした金婚祝賀会がAsahi自然観で行われました。今年金婚を迎えるのは昭和43年に結婚した夫婦で、対象23組中13組が出席。松尾正一さん・みさ子さん夫婦（大町）が出席者代表として賀詞贈呈を受け、正一さんが「結婚50年、苦労もあったが妻と2人3脚で歩んできた人生に幸せを感じている。これからも夫婦仲良く、生涯健康に努めたい」と謝辞を述べました。



10/7 ブドウ収穫を祝い交流を楽しむ
葡萄の木オーナーワイン収穫祭

葡萄の木オーナーワイン制度の収穫祭が10月7日、ワイン城で開かれ、オーナーとその家族など約560人が参加しました。一口の申し込みで720ml入りワイン6本を受け取ることができる当制度。大変好評で申込者も年々増えており、今年のオーナーは348人となりました。参加者はワインの原料となるブドウの収穫を祝い、昼食交流会として、芋煮やバーベキューで仕込んだワインを楽しんでいました。

ホームページに写真



◀ 今年の新成人である「ワイン娘」が真心をこめてワインをサービス

9/23 今年の新酒ワインを堪能
第 38 回 ワインまつり

9月23日、創遊館芝生広場で第38回朝日町ワインまつりが開催され、約1,500人の参加者がこの秋しぼりたてのワインを堪能しました。

前日から当日早朝まで雨に見舞われ、一時は開催が危ぶまれましたが、天候も無事回復し、曇り空で暑過ぎず快適な1日となりました。前売り券が即日完売してしまうほどの人気を誇る当イベントでは今年、赤・白・ロゼのワインを合計1,600リットル、ぶどうジュースを約400リットル用意。参加者は町特産のワインを存分に味わうとともに、国産牛肉でバーベキューを楽しみました。また、会場では桃やブドウなどの秋の味覚が販売されたほか、樽に入れた10キロのぶどうを踏んで搾り出した果汁の重さを競う恒例の「ブドウ踏み競争」が行われ、抽選で選ばれた12組が出場。周囲に果汁を飛ばしながら力強く踏みしめ、仲間たちとの楽しい時間を過ごしていました。

初めて参加したという山形市の女性は「こんなに多くの人で賑わっているのに驚いた。仲間と楽しめて、ワインも最高。また参加したい」と笑顔で話していました。



9/9 民話でまちおこしをする「星の会」主催
古民家で楽しむハープコンサート

昔話語りや、町の古民家を活用したイベントなどを開催し、まちおこしをする「星の会（成原千枝代表）」主催の「ハープコンサート」が9月9日、新宅今井家「宿のやかた」（前田沢）で行われました。同会では今年、毎月1回の古民家カフェの運営やコンサートなどのイベントを企画しており、今回は町内外から約50人が参加。鶴岡市在住の木田智之・直子夫妻が演奏する民族楽器とハープの幻想的な音楽を、歴史ある古民家で楽しみました。



9/10 伝統の運動会は「かぼちゃ」づくし！
第 70 回 かぼちゃ大運動会

9月10日、今年で70回目を数えるかぼちゃ大運動会が宮宿小学校で開催されました。戦後の食糧難の時代に地域住民がかぼちゃなどの農作物を持ち寄り、賞品としたのが由来。今もその伝統を守り、集まった775個のかぼちゃが、健闘する児童たち全員に贈られました。競技もユニークで、1・2年生が参加する「それいけかぼちゃマン」は、紙製の大きなかぼちゃを2人で協力して運びリレー。衣装となるマントには大きく「70」の文字が刻まれ、大会を盛り上げました。

全13チームの発表内容を紹介

～各チームのアイデアを写真と文字でふりかえります～

※メンバーの氏名は順不同・敬称略

農業

【町民】遠藤幹子、設楽英啓、清野千春 【職員】近衛智之、菊地早百合、阿部裕次、安藤秀也



続ける・楽しむ・もうかる 農業

- 農業をずっと続けていける仕組みを作ろう
 - ▶サポーターの受け入れや登録の仕組みづくり
- 農業を楽しめる仕組みを作ろう
 - ▶農家主催のイベント企画・開催など
- 農業でもっと「もうかる」仕組みを作ろう
 - ▶経営や販売の勉強会の企画

仕事の確保

【町民】阿部佳孝、長岡宏明、佐久間裕美、石井好秀
【職員】伊藤雅樹、白田征治、白田淳、志藤陽平

“仕事育”を通じた“人財”づくり

- 町内産業を活用した「仕事育」の実践
 - ▶小学校～高校までのステップアップ職場体験の授業化
 - ▶親子ごと見学体験会の実施
 - ▶小中学校における職業講話の他業種への拡大
 - ▶進路指導教諭に向けた町内産業との情報交換会の実施
 - ▶町内企業が地元で働くことの魅力とやりがいの発信や、働きやすい職場環境づくりを学ぶ社員研修会等の開催



健康増進

【町民】安藤寛、浅岡清二郎 【職員】太田律、佐竹秀文、佐久間淳



集う!話す!憩う!

朝日町版健康ランド“ラッキー”を拠点としたイメージアップ戦略

- 健康づくりに付加価値が生まれるスゴイ施設
 - ▶ミズノ(株)と町民が一体となった施設の立ち上げ
 - ▶ミズノ(株)と地域とのつながりを深める場の創出
 - ▶民間ノウハウを取り入れるきっかけづくり
 - ▶健康づくり部門の雇用の創出
- 「こころ」と「からだ」を整え、楽しく健康づくり

発表、未来へのアイデア。



町民みんなで、これからの幸せをともに考える

6 総策定町民ワークショップ ふりかえり新聞

6 最終号

【第6回/最終回】

日 時：平成 29 年 8 月 29 日（火） 午後 7 時～9 時 30 分

場 所：開発センター 2 階 ホール

参加者：一般町民 37 名、町職員 42 名 計 79 名

観光・交流

【町民】松田昌弘、齋藤千恵、佐直由紀、橋間博美、澤田隆幸、志藤一枝、鈴木高光、渡辺絹代 【職員】伊藤淳、鈴木秀和、岡崎浩幸



なにもないけど ちえっとよってげー

- 町民一人ひとりが知りたい町・守りたい町
- 観光資源（朝日町）を守り隊
 - ▶観耕…棚田景観の維持
 - ▶観巧（工）…朝日町体験、技や味の継承
 - ▶観広…保全活動のPR
- まずは知ることから始めよう
 - ▶朝日町検定など
- 朝日町らしいおもてなしをしよう
- 「んだべ English」でおもてなし

PLAYBACK ワークショップ

～ 当日は、こんなことをやりました ～

町では、平成 30 年度から 10 年間のまちづくりの指標となる「第 6 次町総合発展計画」策定に向け、「町民ワークショップ」を開催しています。

最終回となる第 6 回では、1 チーム 7 分の持ち時間で、これまで各チームが考えてきた活動アイデアの発表が行われました。込めた思いを伝えるには短い時間ではありましたが、町民の皆さんが中心となって衣装や寸劇などの工夫を凝らし、13 チームそれぞれが素晴らしい発表を披露。それぞれの発表終了後には、会場が総立ちの拍手に包まれました。



みなさん、準備はいいですか？

各班の発表後は、全員でスタンディングオベーション！





子育て

【町民】五十嵐結夏、豊永貴子、阿部大悟 【職員】海野淳、本間真紀、阿部祐子

子どもたちの笑顔 いくつ見つけた？

★子育て・教育共通コンセプト

たくましく生きる力 あふれるチャレンジ精神

▶次代を担う人材育成

○「生きる力」「共育（ともい）く」

▶教えて！子ども先生と保育園PR大作戦

▶発見の森で遊ぼう

“町の宝物”を知るきっかけづくり

▶Love Family～家族ってすばらしい～



医療・福祉

【町民】長岡陽子、長岡浩之、小林郁
【職員】熊谷忍、川村美里、清野敏秀、白田久寿

持っている力を発揮でき 自分らしく 共に生きる町

障がいがある人、引きこもりの人、人づきあいが苦手な人などが
自分に自信を持って活躍できるまちをつくる

○居場所づくり

▶話、交流できる場 ▶安心できる場

○就労サポートセンター整備

▶事業主、町民の理解を深め就労の場をつくる

▶障がい者等と事業主を結びつける仕組みをつくる



教育

【町民】梅津透子、海野真子、菅井道也
【職員】阿部忠之、安藤正人、阿部拓也、佐藤英輝

ASAHIっ子よ 大志を抱け

○ASAHIっ子スタディー

▶自主的学び場の提供

○ASAHIっ子チャレンジ

▶自己決定力を高めるため、多様な体験を積む機会の提供

○ASAHIっ子ワークショップ

▶町内外の高校生との交流

○「朝日町大志塾」の開設



地区の活動

【町民】白田和好、長岡信悦、長岡憲夫、斉藤隆
【職員】安達和史、鈴木滝子、高橋登夢、佐藤修、阪野正義（地域おこし協力隊）

10年後、どの地域もみんなが楽しく 安心して暮らせるまち

○「地域の守りと攻め、地域の位置付けを明確にする」
地域づくり計画の策定

▶地域が変わるためには学びが必要

▶ワークショップ＝学びの場

→町民ワークショップの学びを活かす



住まい

【町民】鬼武裕子、安藤尚之
【職員】鈴木勝、菅井宏支、堀隼聡、石井応宝（地域おこし協力隊）



空き家発生ゼロ

○空き家に関する計画策定

▶実態把握…空き家所有者への聞き取り

▶活用者増加…空き家所有者の意識改革

▶利用者増加…賃借・購入希望者へのPR

まちの賑わい創出

【町民】今井一彦、平雅之、阿部由良、鈴木聡
【職員】佐竹文子、長岡昭博、菅井俊樹、堀隼聡

交流が盛んなまち

○新しい交流の場づくり

▶「蔵の広場」や「豊龍の丘」の活用

▶四季を感じられる「リアル体験型パーク」をつくる

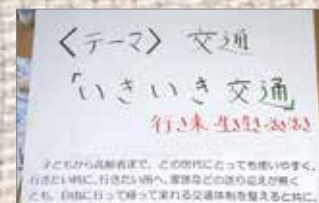
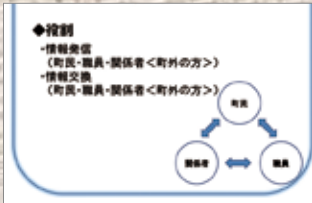
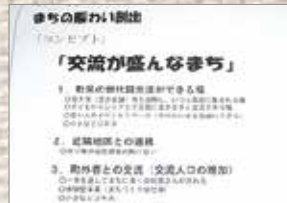
▶まちづくり会社の設立

○「地域サポーターバンク」の結成

▶祭りなどの地区運営の助け合いや支援

▶楽しくやりたいことの実現支援





発表を終えて…【講評】



町民ワークショップアドバイザー（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授）
醍醐 孝典 氏

～当ワークショップのアドバイザーである醍醐氏と岡崎氏、そして鈴木町長より講評をいただきました～

発表チームが13チームもありましたが、時間が過ぎるのがあっという間でした。各チームともに皆さんを楽しませようという工夫があり、計画をつくるうえで重要な内容も、しっかり盛り込まれていました。

本日皆さんから発表していただいた内容を整理しながら計画作成をすすめていくことになりますが、「職員と町民の皆さんがつながっている」この形を継続していつてほしいし、これを活かしてアクションを起こして欲しいと思います。

皆さん「伝えよう」という気持ちが前面に出ていましたし、ここまでできたことは誇りに思っていたといいと思います。発表については、チャレンジングな計画がたくさんあったと感じました。今あるものを借りてくるレベルではなく、挑戦しようという意志や、皆さんが大人から子どもまで関わりあって人を育てていくんだという気迫を感じました。10年かけて新しく、さらにパワーアップした朝日町になるように頑張っていってほしいと思います。



町民ワークショップアドバイザー（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授）
岡崎 エミ 氏

3月から計6回にわたり、計画策定のために真剣に取り組んでいただき、本当にありがとうございました。皆さんの今日までの頑張りや「住みよいまちは自分たちでつくっていくのだ」という熱い思いがひしひしと伝わってきました。皆さん1人1人の姿が我々の目指す「希望活動人口」なのだと感じました。計画はつくるのが目的なのではなく、つくった後がより大事だと思っています。皆さんの思いを大切にしながら第6次総合発展計画を策定し、皆さんとともにまちづくりに取り組んでまいります。



朝日町長 鈴木 浩幸

◆6次総合計画策定 今後のスケジュール（予定）

- 9月～12月：総合発展計画策定委員会の開催
- 12月～1月：パブリックコメント（公衆意見）の募集
- 2月：振興対策審議会で審議
- 3月：朝日町議会3月定例会に上程
- 平成30年度
- 4月：第6次町総合発展計画を基盤としたまちづくりの開始

困りごとと支援

【町民】鈴木貞夫、早坂真紀、遠藤大輔
【職員】齋藤文子、五十嵐愛、安藤秀也

私たちにできないことはない

いろいろあったけど 住んで良かった朝日町

- 「高齢者の楽しみ」と「子どもの遊び場」と「子どもを持つ親の安心」づくり
 - ▶高齢者と子どもたちがいつでも利用可能な交流の場をつくる
- まちの困りごとと相談にのります。一緒に解決していきましょう!!
 - ▶「株式会社あさひまち困りごとと解決します」設立



地域と行政の協働

【町民】渡邊恵美子、小林純恵 【職員】岡崎国宏、松尾拓哉、五十嵐悠輝

「協働」希望への縮充!! ～絆が織りなす地域コミュニティー～

- 「担い合」目指せ!日本一の「絆」コミュニティー
 - ▶町民と行政が協働で運営する「西部コミュニティーセンター」「北部コミュニティーセンター」を設置
- 「知り合」
 - ▶旬の情報を密に交換（町民⇄職員）など
- 「高め合」認め合い互いに“WIN-WIN”な関係に
 - ▶町民の「気付き」「発見」と、行政のスピーディーな対応がお互いの信頼関係を築く



交通

【町民】柴田栄三郎 【職員】伊藤博美、佐竹佑斗、阿部夏弓、青木亮太（地域おこし協力隊）

いきいき交通（行き来・生き生き・活き活き）

- デマンドタクシーの使いやすさ向上計画
- 公共交通機関利用で町外への移動も楽々計画
- 安全・安心な道路環境整備計画
 - ▶通学路を中心とした歩道整備など
- 朝日町的未来型交通
 - ▶道路も路線も走れる車両「デュアル・モード・ビークル」の導入





こんにちは。移住・交流推進員の水沼です。今回は、「ゲストハウス松本亭」農舎（以下松本亭）の利用事例をご紹介します。と思います。

松本亭は現在、毎日午後1時から8時（水曜定休）の間で、どなたでも自由にお使いいただけます。利用に際して料金はかかりません（貸切の場合は必要）。

例えば、ご近所の仲良し同士でお茶飲み、小中学生なら友達同士で宿題やゲームを楽しむ方が多いです。また、キッチンで自炊してピザパーティーを開催したり、館内で作品の展示会をしたりするグループもあります。

館内には無料WiFiが通じており、給湯設備やお茶請け



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「松本亭の使い方」

移住・交流推進員（地域おこし協力隊） 水沼祥乃^{よし}（香川県出身）



松本亭での団らんの様子

もあります。「夕方や休日に何か作業をしたいけど家では集中できない」「仲間と簡単な打ち合わせをしたいけど適した場所がない」「こんなふう感じている方は、ぜひ一度、松本亭を使ってみてはいかがでしょう。」「こんな使い方はできる？」と気になった場合は、どうぞ遠慮なくお問い合わせください。

私が以前訪れた海外のあるゲストハウスでは、日替わりで様々なイベントを催していました。木曜日はゲームナイト、金曜日はバーベキュー等々。週末には路地を散策しながら町の歴史や文化を学ぶツアーが開催されていました。こうした催しには宿泊者以外の地域の人も参加しています。

松本亭が、旅行者はもちろん、地域の皆さんにとっても気軽に使える憩いの場となるよう活動していきます。



がんは身近な病気です 健康に自信があっても検診を！



【平成29年度第7回】今月の担当…山崎 眞裕 主事

10月は「がん検診推進強化月間」、がん検診受診率50%に向けた集中キャンペーン期間です。皆さんは今年度、がん検診を受けましたか？

がんは日本で最も多い死亡原因で、2人に1人が一度はかかる可能性があるとも言われる、とても身近な病気です。県においても平成28年のがんによる死亡者数は41000人、死亡率はなんと全国4位と非常に高くなっています。

がんは、家族や親戚にがんになった人がいなくても、かかる場合があります。また、たばこを吸わないことや食生活の見直し、適度な運動などで「なりにくくする」ことはできますが、「ならないようにする」ことはできません。

そこで大切なのが、検診を受け、がんを早期発見することです。早期のがんは自覚症状がほとんどないものも多く、気が付いた頃には手遅れになっている場合もあります。

がんを早期の段階で発見し治療に繋げることで、転移・再発の防止にもなり、高い確率で治せるようになります。さらに、体への負担が軽い治療で済むといったメリットもあります。

また、がんの中には進行が速いものもあるため、定期的に検診を受けることがとても重要です。

町では左記の日程で検診を実施しており、一日・早朝健診には、各種がん検診も含まれています。今年度の日程も残り少なくなっておりますので、まだ受けていない方は健康福祉課までお申し込みください。



▼問合せ先
健康福祉課 健康推進係
☎ 67・2116

	月 日	受付時間
早朝健診	10月25日(水)	6:20~7:00
一日健診	11月20日(月)	7:50~8:30
	12月11日(月)	
レディース検診 (子宮・乳がん)	1月 9日(火)	13:00~13:30
	10月23日(月)	
	11月 8日(水)	
	11月10日(金)	
	11月24日(金)	
	12月15日(金)	



町全体が博物館！ 朝日町エコミュージアム サテライト散策

第6回 大隅遺跡

【DATA】町道和合・栗木沢線（元国道287号線）の和合大隅、旧明鏡橋の南側、道路脇に看板・標柱あり

昭和11年、明鏡橋の架け替え工事で大隅地内道路脇の崖の切り崩しを行ったところ多くの石片が出土し、大竹國治氏が保管。昭和22年に和合小学校に勤務していた田原真稔氏がそれを預かり、昭和24年に田原氏の同僚であった菅井進氏が、考古学誌に「粗石器に関して」と題して旧石器について報告しました。その後、昭和54年に国道拡幅工事に際して、大隅地内のりんご園の発掘調査が行われ、3点の石器を新たに発見。昭和56年、約2万~1万7千年前の旧石器時代後期の遺跡として、町指定の史跡になっています。

菅井進氏が大隅遺跡について報告したものは、事実上日本で初めて旧石器の存在を学会に問うものであり、これはなんと、群馬県岩宿で相沢忠洋氏が日本初の旧石器を発見したとされる6カ月前のことなんだ。町ではそれを記念して、平成8年に「幻の日本初・大隅遺跡旧石器発見60周年記念シンポジウム」を開催しているよ。

案内人の
つぶやき



▲りんご園地内に立つ標柱
◀道路を挟んで、説明の案内板があります

町立図書館新刊案内

「ドッグ・メーカー」警視庁人事一課監察係 黒滝誠治

深町 秋生 著



ひと月前、赤坂署の悪徳刑事を内偵中の同僚が何者かに殺害された。黒滝警部補は希代の、覆面師、白濁警務部長、美しくも苛烈なキャリア相馬美貴の命を受け、捜査を開始する。著者は南陽市生まれ。

最上平さん最新作
「ブルちゃん」

二十五ばんめの友だち
最上 二平 作／青山友美 絵



どしゃぶりの中、かさもさぐずに登校してきたけし。なにかをだいにそっぴに持っている。たけしが持っていたのは、なんと、ひきがえる！ひきがえるは、1年生の25番目の友だちとして、水槽で飼われる...



【ブックテーマコーナー】
10月は『がん検診推進強化月間』
～がん検診 愛する家族への贈りもの～

戸籍のまど

Asahi town

9月1日～9月30日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
八ッ沼	古 田 みのり	女	晋・雅子
大 隅	白 田 隼 也	男	拓也・早苗
常 盤	阿 部 かな 海	女	誠・仁美
沼 向	佐 藤 あゆむ 武	男	聖・菜美

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
本 町	伊 藤 美佐子	本 人
大船木	笹 井 三千代	本 人
松 程	鈴 木 鐵 男	本 人
今 平	鈴 木 チヨノ	本 人
夏 草	佐 竹 長 雄	本 人
常 盤	阿 部 すげよ	秀 紀
沼 向	菅 井 一 道	道 也
大谷六	長 岡 喜代子	本 人
雪 谷	鈴 木 和 夫	本 人
大谷五	白 田 一 美	房 子
長 沼	笹 原 章	昌 俊
栗木沢	佐久間 義 一	優

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成29年 9月30日 現在
※（ ）内は先月比

人 口	7,117 人 (- 11)
男	3,514 人 (- 6)
女	3,603 人 (- 5)
世帯数	2,460 世帯 (± 0)

----- 9月中の異動 -----

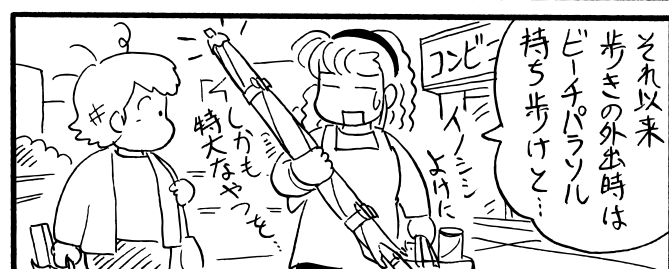
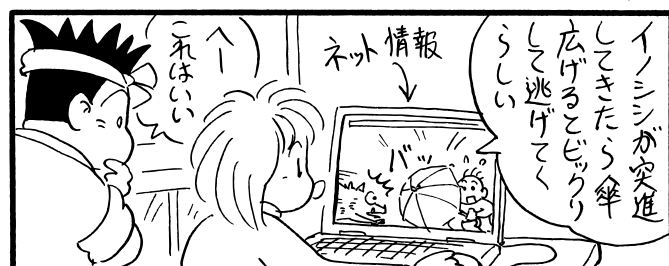
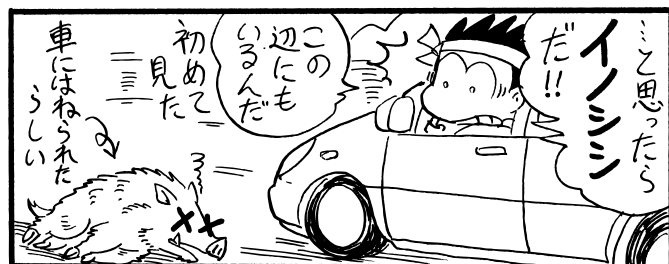
出生	4人	転入	3人
死亡	12人	転出	6人

(※外国人を含む)

となりのリンゴさん

(296)

ホリイ



町の主な行事・イベント

(10月17日～11月16日)

10月21日(土) あさひまちアップルミートマラソン
&ウォーキング

22日(日) 町民バレーボール大会

28日(土) 朝日中学校文化祭

11月3日(金) 朝日町芸術文化祭(～5日)



昨年の様子:あさひまちミートマラソン(左)、芸術文化祭(右)

2年間で来場者数 78 万人を達成 道の駅あさひまち2周年

10月1日、道の駅あさひまち「りんごの森」がオープン2周年を迎えました。
2年間の来場者数は、のべ78万5000人を記録。総売り上げは4億2500万円と、今年度上半期で昨年度同期比4%の伸びとなっており、町の交流観光拠点として、当初想定を上回る賑わいを維持しています。
10月1日に行われた2周年記念イベントでは、ジャズバンドによる演奏やヒップホップダンスのステージ、出店屋台でもおもてなし。りんご中生種の販売も開始しており、当日は県外ナンバーの車が多数訪れ、駐車場の満車状態が続くほどの大盛況となりました。



▲▲多くの来場者で賑わった道の駅あさひまち(10月1日)

盲特別養護老人ホーム和合荘 阿弥陀三尊像の絵画が寄贈

盲特別養護老人ホーム和合荘に「国宝・阿弥陀三尊像(兵庫県浄土寺)」を描いた絵画が寄贈されました。
これは、油彩画家である小田朝繁氏(三重県)が「目の不自由な入荘者の方が、絵に触れ、仏様の慈悲に触れられるように」との思いから全国の福祉施設に向けて贈っているもので、9月30日の敬老会でお披露目されました。
絵画は同荘内に展示され、入荘者の中には絵に触れながらお参りする方もおり、心の癒



▲寄贈された仏像画に触れ、お参りする入荘者の皆さん
▲絵画は10号の正方形(53センチ四方)サイズ

各種大会の成績



※県南大会は10月21日開催

5位(すべて県南大会出場)
剣道女子 清野凛華

3位(※印は県南大会出場)
剣道男子 渡辺友介※

柔道男子 55キロ級 阿部風

男子ソフトテニス(阿部悠斗・佐竹雄志) ペア

卓球女子 菅井愛未

1位(すべて県南大会出場)
柔道男子 55キロ級 若月真都偉

柔道男子 66キロ級 堀俊介

柔道男子 81キロ級 志藤圭介

男子バスケットボール、女子バスケットボール、卓球男子、柔道男子、剣道男子

団体戦

3位

西村山中学校新人総合体育大会(9月30日～10月1日)



あさひまちアップル ミートマラソン&ウォーキング

10月21日 午前9時10分 スタート!



「あさひまちアップルミートマラソン&ウォーキング」が、いよいよ今月21日に開催されます。Asahi自然観を発着点とするダウンヒルクライム(下り・上り坂)、マラソン部門10キロとウォーキング部門8キロのコース。両部門合わせて246人が出場予定です。沿道の皆さまの温かい応援、よろしくお願いします。

※本誌と一緒に今年も応援小旗用のシートをお配りしています(右)。割り箸とセロハンテープで簡単に作れます。ぜひご活用ください。

◆問合せ先 政策推進課ブランド推進係 ☎67-2112



手作りの応援小旗で
ランナーに声援を!

朝日町の出場者です。応援よろしくお願いします。

【五十音順、敬称略】 阿部和幸(西原)、安藤茂雄(松原)、安藤剛志(西船渡)、川口幸男(大暮山)、川村良太(大谷二)、佐久間淳(栗木沢)、白田保則(大谷六)、鈴木葵葉(四ノ沢)、鈴木千尋(四ノ沢)、鈴木詩織(大町)、鈴木浩幸(大町)、鈴木創(小原)、鈴木満(高田)、鈴木康之(元町)、清野寿浩(小原)、長岡和之(大谷三)、長岡輝喜(新宿)、長岡利幸(松原)、成原千枝(前田沢)、早坂健一(大谷五)、原田晶紀子(能中)、堀瑞生(中沢) 宮本建一(西船渡)、村形寿彦(栄町)、渡邊博美(前田沢) ※公表を了承いただいた方のみ掲載

春夏秋冬 編集後記

鳥獣被害は農業者
だけの問題ではない

里山に近く、最上川や朝日川が蛇行して流れる朝日町。クマは主に水辺を渡って移動を行い、その距離たるや平気で一山一山を越えるといえます。県内でもクマによる人身被害が実際に起こっています。鳥獣被害対策実施隊の皆さんも日々警戒を行っています。『鳥獣被害は他人事ではない』という意識を持ち、正しい知識と対処法を身に付けていきましょ。村山 彩

(※) 全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(平成27年度最新)

農業県であり、おいしい果物やお米、野菜が自慢の山形。人が食べておいしいものは動物も好物で、春から鳥獣被害のニュースが絶えません。

農林水産省の調べ(※)によると、シカによる作物被害額が全国で60億円と最も高く、次いでイノシシ、カラスが続きます。クマによる被害は約300万円。町ではクマ被害が一番多いので、少し意外な結果でした。ただ、数字だけでは測れないのが鳥獣被害の恐ろしさです。